

訓練押しかけ支援隊事業 in 佐伯市

県内 初の津波避難タワーで初の防災訓練(池船・城南地区)

令和2年7月19日(日)、佐伯市池船・城南地区の自主防災組織による津波を想定した防災訓練が行われました。これは、昨年度予定されていたが新型コロナウイルスの感染拡大防止のため延期になったもの。

ようやく実現した訓練には総勢134名が参加しました。

9時の訓練放送を合図に住民が自宅から避難を始めタワーを体験しました。

その後、NPO 大分県防災活動支援センターの清松事務局長が、「東日本大震災」の“釜石の奇跡と悲劇”の実話をもとに、『自分の地域の本来の避難場所は、正確に知り、正しい場所への避難を心がける大切さ』を話し、避難タワーは『避難が遅れた人、避難行動が早く出来ない要配慮者』のための避難場所であることを住民に改めて認識して頂きました。

次に、佐伯市社会福祉課より「避難の際の要配慮者の車いすの乗せ方」についての実技説明、佐伯市消防署より「搬送方法」の実技説明がありました。

今後の課題として、“ソーシャルディスタンスを守った避難の留意”や“消毒液、体温計、マスクなど感染症を意識した避難のあり方”が求められます。

